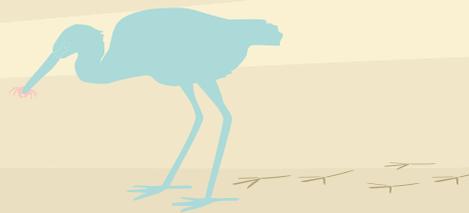


# なぎさ NEWS



## 地曳き網に入った小さな小さな二枚貝

水族園では、定期的に葛西海浜公園の「西なぎさ」で地曳き網調査を行っています。地曳き網に入る生き物と聞いて、まさきに思いつくのは魚ではないでしょうか。しかし、網に入る生き物は魚だけではありません。巻き上がった泥が網に入ること、海底にくらしている生き物が採集されることもあるのです。

昨年(2015年)の10月に行った地曳き網調査には、サルボウガイ、ホトギスガイ、ヤマトシジミ、シオフキガイ、シズクガイ、ホンビノスガイ、アサリ、ソトリガイの8種の二枚貝が網に入りました。大きいもので殻の幅が14mmほどの稚貝です。過去の調査でも二枚貝の稚貝が入ることはありましたが、ここまで多くの種が一度に網に入ることはあまりありません。調査当日は、海が濁って見えるほど泥が巻き上がっていました。そのせいで、海底表面にくらしている稚貝が網に入ったのかもしれない。

ところで、二枚貝のなかまは水管を使って水中のプランクトンや懸濁物を吸いこみ、濾しとって食べています。つまり、二枚貝は海をきれいな状態にたもつ“お掃除屋さん”なのです。

今年も「西なぎさ」にはちゃんと二枚貝が着底していることがわかりましたが、成体になれるのはほんのひとにぎりです。どの程度の数が定着するのか、これからも観察をつづけていきたいと思います。(調査係 市川啓介)



殻の幅が10mm前後の小さな貝

## 冬の「西なぎさ」で見つけた小さなカニ



タカノケフサインガニの稚ガニ(上)とオスガニ(下)

昨年(2015年)の12月12日に「西なぎさ」で生き物調査を行いました。秋までは活発に活動していたコマツキガニやオサガニの姿がほとんど見当たらず、冬の「西なぎさ」はとても静かでした。

そんななか、堤防沿いの石をひっくり返すとタカノケフサインガニが見つかりました。甲らの幅が3cmほどのカニで、「西なぎさ」では普通に見られるカニです。特徴は名前にある「ケフサ」で、オスのはさみに細かい「毛ふさ」があります。メスにはなく、この毛ふさがいったいなんの役に立っているのかはまだ詳しくわかっていません。

ふとひっくり返した石にも目をやると、何やら動くものが！よく見ると、とても小さなカニでした。おそらくタカノケフサインガニの稚ガニです。カニのなかまの多くは、卵からふ化してしばらくのあいだ、海中を漂うプランクトンとして生活します。何度か脱皮を繰り返して稚ガニへ姿を変えると、海底での生活へとくらしも変わります。今回見つけたものは甲らの幅が3mmほどで、私がこれまで見たなかで最小でした。まだ稚ガニになって間もないのかもしれませんが、冬の「西なぎさ」は寒く、見られる生き物も少なくなりますが、季節を通して観察すると、その季節ならではのおもしろい発見がきっとあるはずですよ。(教育普及係 幅 祥太)

## なぎさ 生き物ミニ情報

水族園は「西なぎさ」と「東なぎさ」で、さまざまな調査を行っています。今回は、10月と12月に行った地曳き網調査の結果をお伝えします。

**10月地曳き網調査：**風が冷たくなる季節ですが、水温はまだ暖かく23℃ほど。網には泥の中や表面にくらしている生物がたくさん入りました。「なぎさNEWS」コーナーでも紹介した二枚貝類をはじめ、ゴカイのなかまやクーマという小さな甲殻類などが多数、観察されています。

**12月地曳き網調査：**気温が13℃、水温が14℃まで下がり、「西なぎさ」も冬らしくなってきました。調査ではアシシロハゼやエドハゼといったおなじみの魚のほか、毎年、この時期に見られる透明なアユの稚魚が網に入り、採集生物にも冬らしさが感じられました。